

これまでの研究

R2年度 目標 ～言葉のへの自覚を高め、言葉の感覚を養う～

つきたい力

- ・言葉の一つひとつに立ち止まることができる
- ・叙述の表現に沿う音読や読み取りができる
- ・中心となる語や文を見つけ、自分の言葉でまとめることができる
- ・他者の意見を自分の考えに活かす

○取り組み

- ・言葉の宝箱を活用し、語彙を増やす。叙述をもとに考えさせる。
- ・ふり返りの交流。(他者の考えとの比較・分類)
- ・ペア学習・グループ学習の活用し、考えの交流。

成果

- ・言葉を捉えることを意識させることで、物語のもつ魅力を感じることができる児童が増えた。(言葉)
- ・叙述から登場人物の気持ちを想像したり、考えたりすることができるようになってきた。(ふり返り)
- ・他者の意見にふれることで、考えが広がる児童が見られるようになった。(話し合い)

課題

- ・語彙力に個人差が見られる。知っているが活用できない児童が多い。
- ・読みが深まりにくい児童への手立て。
- ・話す力・聞く力が弱い。ポイントを押さえられない。

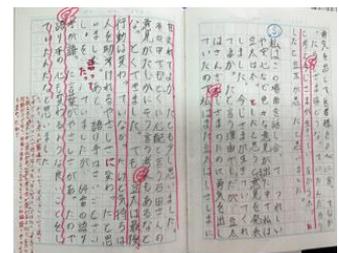
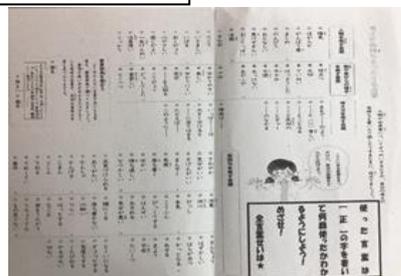
次年度に向けて

- 言葉を使う場面の設定が必要。学び合いに力を入れていく。
話し合い活動を通して、言葉の良さを感じ合ったり、語彙の拡充につなげたりする。
- 学び合いで他者の考えにふれ、互いの意見を比較・分類・関連付けることのできる児童を育てる。
- キーワード押さえる力が必要。(話す力・聞く力)

◎学び合い活動により、力を入れていく!

みんなの言葉
キーワード
話し合いマニュアル
ふり返りの型

言葉の宝箱



児童のノート